

問1 自然堤防のように、低湿地の中で周囲よりわずかに標高が高い場所に集落が立地する現象について、その特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 河川の氾濫による水害を避けるために、安全な微高地が選ばれている。
2. 標高が高い場所は風通しが良いため、夏の酷暑を避ける目的で選ばれている。
3. 周囲よりわずかに高いため、敵の襲来をいち早く察知できる軍事的な利点で選ばれている。
4. 微高地は傾斜があるため、水田稲作に必要な大量の水を管理しやすく農作業に適している。

問2 近年の日本の都市部では、短時間の集中豪雨によって道路や住宅が浸水する「都市型水害」が頻発しています。都市部において、このような水害が起こりやすくなっている主な理由として最も適切な説明はどれですか。（2022年 佐賀公立入試 類似）

1. 地面がアスファルトやコンクリートで覆われている範囲が広いため、雨水が地下にしみ込みにくく、短時間で河川や下水道に水が集中するから。
2. 都市部周辺で森林の整備が進みすぎた結果、樹木が雨水を蓄える能力が限界に達し、地表を流れる雨水の量が増加したから。
3. 市街地に建設されたダムや遊水地の数が多すぎるため、放流された水が市街地の排水路に逆流して浸水を招いているから。
4. 高層ビルが密集して風通しが悪くなったことで、上空の雨雲が移動できなくなり、特定の地域だけに長時間雨が降り続くから。

問3 新潟県から静岡県にかけて広がり、ラテン語で「大きな溝」という意味を持つ、日本の山地や山脈が連なる方向を分ける大きな地質学的な境目の名称を選びなさい。（2026年 青森公立入試 類似）

1. フォッサマグナ
2. 中央構造線
3. 日本海溝
4. 火山フロント

問4 日本各地には、過去に発生した大規模な地震や津波の被害状況、あるいは避難の教訓を後世に伝えるために設置された石碑が数多く存在します。国土地理院がこれらの位置を地図上で示すために新設した地図記号の名称として、最も適切なものはどれですか。（2024年 広島公立入試 類似）

1. 自然災害伝承碑
2. 指定緊急避難場所
3. 重要文化的景観
4. 史跡・名勝・天然記念物

問5 火山の噴火による爆発や、噴火した後に地下のマグマが消失することで、地表が陥没して形成された大規模なくぼ地状の地形を何と呼びますか。（2018年 高知公立入試 類似）

1. カルデラ
2. フィヨルド
3. フォッサマグナ
4. 三角州

問6 日本の地質構造において、フォッサマグナが果たしている役割や性質を説明した文として、適切なものを選びなさい。（2014年 和歌山公立入試 類似）

1. 日本列島の土台が折れ曲がった際に生じた巨大な溝のような場所であり、地形を東西に分ける境界となっている。
2. 西日本の山地を南北に分断する巨大な断層であり、険しい山脈が連なる要因となっている。
3. 太平洋プレートが大陸プレートの下に沈み込むことで形成された、海岸線に並行する深い海溝のことである。
4. 火山活動によって噴出した火山灰が厚く堆積してできた、東日本に広く分布する平坦な台地のことである。

問7 三つの異なる地域の雨温図を比較した際、冬の最低気温が氷点下まで下がり、年間の降水量が千ミリメートル程度と比較的少なく、夏に降水が集中している都市が見られました。この都市が属する気候区分として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2026年 埼玉公立入試 類似）

1. 中央高地の気候
2. 瀬戸内の気候
3. 太平洋側の気候
4. 日本海側の気候

問8 川が山間部から平地へと流れ出るところに見られる扇状地では、古くから果樹園として土地が利用されることが多くあります。このように、扇状地が水田よりも果樹園としての利用に適している理由を説明したものとして、最も適切なものはどれかを選びなさい。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 山地から運ばれた礫や砂が多く堆積しており、水が地中にしみ込みやすく水はけが良いため。
2. 標高が低く周囲から水が集まりやすいため、常に湿った状態を好む作物の栽培に適しているため。
3. 粘土質の土壌が厚く堆積しており、水を地表に溜めておく力が非常に強いため。
4. 地表面が平坦で保水力が高いため、灌漑施設を作らなくても大量の水を確保できるため。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 河川の氾濫による水害を避けるために、安全な微高地が選ばれている。	日本の平野部にある集落の多くは、地形のわずかな高低差を利用して立地しています。断面図などで確認すると、周囲が1m程度の低地であっても、集落がある場所だけは2mを超えるようなわずかな高まりになっていることが多く、これは河川の氾濫から生活を守るための知恵です。このような地形的制約と防災上の観点から集落が形成されるのは、日本の伝統的な土地利用の大きな特徴です。
問2	<b>答え 1</b> 地面がアスファルトやコンクリートで覆われている範囲が広いため、雨水が地下にしみ込みにくく、短時間で河川や下水道に水が集中するから。	都市部では宅地開発や道路整備が進み、地表の多くがアスファルトやコンクリートで固められています。これにより、森林や田畑のような「雨水を一時的に蓄え、地下に浸透させる機能」が失われています。その結果、降った雨が短時間で一気に下水道や周辺の河川へ流れ込み、その排水能力や許容量を超えてしまうことが、都市型水害の大きな要因となっています。
問3	<b>答え 1</b> フォッサマグナ	この境界地帯は、日本列島を東側と西側に分ける巨大な溝のような構造になっています。中部地方から関東地方にかけて、日本アルプスのすぐ東側に位置しており、日本の複雑な地形が形成された過程を知る上で非常に重要な地質学上の区分です。
問4	<b>答え 1</b> 自然災害伝承碑	過去の災害の教訓を地域住民に伝え、防災意識を高める目的で設置された石碑を「自然災害伝承碑」と呼びます。2019年から国土地理院の地形図において新しい地図記号として採用されました。これにより、過去の被災状況を地図上で容易に確認できるようになり、避難計画の策定などに役立てられています。
問5	<b>答え 1</b> カルデラ	火山活動の結果として形成される特有の地形で、スペイン語で「鍋」を意味する言葉に由来します。大規模な噴火によって地下のマグマだまりが空になり、そこが崩れ落ちる（陥没する）ことで大きなくぼ地が生まれます。日本では熊本県の阿蘇山などがその代表例として知られています。
問6	<b>答え 1</b> 日本列島の土台が折れ曲がった際に生じた巨大な溝のような場所であり、地形を東西に分ける境界となっている。	フォッサマグナはラテン語で「大きな溝」を意味します。その名の通り、地質学的に深い溝のような構造になっており、そこを新しい時代の地層が埋めることで現在の地形が形成されました。この帯状の地域を境にして、日本列島の地質や構造が東側と西側で大きく異なっています。
問7	<b>答え 1</b> 中央高地の気候	本州中央部の標高が高い地域に位置するこの気候区は、冬の寒さが厳しく、夏と冬の気温差（年較差）が大きいのが特徴です。また、周囲を高い山々に囲まれているため、季節風による湿った空気が入りにくく、年間を通して降水量が少ない傾向にあります。
問8	<b>答え 1</b> 山地から運ばれた礫や砂が多く堆積しており、水が地中にしみ込みやすく水はけが良いため。	扇状地は、河川が山地から平地に出る際に、運んできた土砂や礫（小石）を堆積させて作った地形です。堆積物の粒が大きく隙間が多いため、雨水や河川水が地下に浸透しやすく、「水はけが良い」という特徴があります。水を溜める必要がある水田には不向きですが、乾燥した環境を好むブドウやモモなどの果樹栽培には非常に適しています。